



文部科学省の調査によると、長期の休みが明けるタイミングで自死の件数が増加しています。学校ではこの時期、生徒の様子に変化がないかを特に注視しています。

高校生の自死 意外な原因！

高校生の自死は増加傾向にあります。また、小学生から高校生まで共通して女子の増加率が高くなっています。報道等を見てみると「いじめ」が原因での自殺が取り上げられ、自死は「いじめ」が主たる原因ではないかと思ってしまうかもしれません。

ところが、令和3年6月に文部科学省が児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議で発表した厚生労働省の統計に基づく「児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集」では、令和2年度の高校生の自死の内訳は右表のとおりでした。この表にはありませんが、高校生の「いじめ」での自死は1件でした。この結果には私も驚きました。マスコミの報道などに偏りのある見方をしてしまうことを感じました。

原因・動機	人数(人)
進路に関する悩み(入試以外)	44
学業不振	35
病気の悩み・影響(うつ病)	31
親子関係の不和	25
病気の悩み・影響(その他の精神疾患)	25
学友との不和(いじめ以外)	19
失恋	16
家族関係の不和(親子関係、夫婦関係を除く)	12
入試に関する悩み	11
家族からのしつけ・叱責	10

また、令和元年度から2年度にかけての変化の特徴は、中学生以上で精神疾患による自死が大きく増えていることです。コロナ禍での影響も大きいと考えられ、家族の在宅勤務への配慮やステイホームでゲームに没頭して家族から叱責を受けるなど、家庭が物理的な居場所(House)の状態にあり、居心地の良い場所(Home)になっていない可能性が高いとの分析でした。また、学校行事の削減による達成感の喪失や友人とのコミュニケーションの機会が減ったことによる息抜きの場の消失も影響しているだろうとのことです。

この対策として、自他尊重のコミュニケーション能力、ストレス対処能力の育成など、心の健康教育の必要性が示されています。子どもたちを支援する我々大人は、カウンセリングマインドやネットワークマインド(つながる心と力)を持って接する必要があります。

これからゴールデンウィークに入り、10日間の連続した休みに入ります。保護者の皆様にはお子様の様子を観察していただくとともに、お子様の思いを聞いていただき、まずは気持ちを受け入れていただきますようお願いいたします。また、コロナ禍での対応にお困りの場合は、地域の福祉課などへ相談され、サポートしていただける支援機関を適切にご活用ください。生徒のみなさんもしんどいときは一人で悩まずに誰かに助けを求めてくださいね。

校長 松川 明義



【行事予定】27日(水)：部室移動

29日(金)：昭和の日

5月2日(月)・6日(金)：体験的学習活動等休業日

5月3日(火)：憲法記念日 4日(水)：みどりの日 5日(木)：こどもの日

